

# 発掘調査で見えてきた 古代の原田地区

雄大な富士山に抱かれた大地と豊かな水に恵まれた原田地区の  
 地中に、太古の人々のくらしの痕跡が今も残ることをご存じでしょ  
 うか。公共事業などに先立つ発掘調査によって、ひとたび遺跡が  
 現代の地表に顔をのぞかせると、現代人が忘れていた一千年以上  
 前の人類の記憶を、遺跡は雄弁に語り始めるのです。ここでは富  
 士市教育委員会の最新の調査で判明した、原田地区の考古学の最  
 前線についてご紹介します。  
 (文化財課 藤村・若林)

## 比奈1古墳群(石切平第2号墳) 1,300年以上前の古墳を 新規発見!!

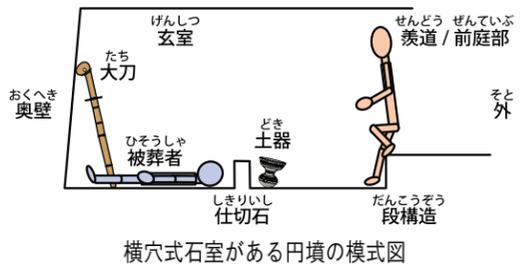
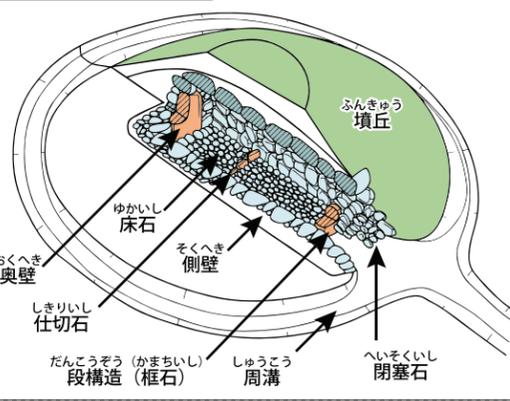


石切平第2号墳の横穴式石室(築造当初の床面:下層床面)

富士市原田に所在す  
 る石切平第2号墳で  
 は、今年1月から3月  
 にかけて、発掘調査が  
 行われました。この古  
 墳は、市の公共事業計  
 画に先立ち、令和4年  
 9月に実施した遺跡の  
 有無を確かめる調査に  
 よって初めて発見され  
 た、市内では746番  
 目の古墳です。今回の  
 発掘調査によって、飛

### 墓室の中身は

古墳の埋葬施設は、  
 平面プランが長方形と  
 なる無袖形の横穴式石  
 室であり、石室の全長  
 は約5.5m、最大幅  
 は約1.4mを測りま



横穴式石室がある円墳の模式図

す。市内で見つかった  
 いる同種の石室の中  
 は、一般的なサイズの  
 古墳といえそうです。  
 壁の石には周辺で産出  
 する富士山の溶岩が使

われ、床面には駿河東  
 部に特徴的な仕切石や  
 段構造といった石室内  
 を区画する施設が設け  
 られていました。

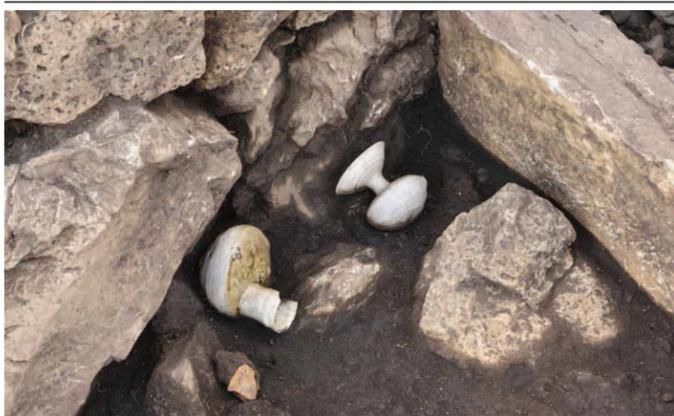


仕切石の奥には河原石の石敷、手前には須恵器や大刀が出土(上層床面)

遺体を横たわらせた  
 床面は計2面見つか  
 り、耳飾りや骨片の出  
 土から、少なくとも3  
 人以上の人が埋葬され  
 ていたことがわかりま  
 した。下層(築造当初)  
 の床面では全面に溶岩  
 礫が敷かれ、上層(2  
 回目以降の埋葬)の床  
 面では仕切石より奥側  
 だけに河原石が敷かれ  
 ていました。石室床面  
 の模様替えについての  
 強いこだわりは、この  
 地域の古代人の特色の  
 一つといえそうです。  
 なお、仕切石よりも奥  
 側から耳飾りが4点  
 (2組)出土しており、  
 奥側が主たる埋葬空間  
 として使用されたこと  
 がよいでしょう。

奥壁の隅には、  
 立てかけられた大刀が

弓の飾り金具といった  
 豊富な武器のほか、金  
 銅製の耳飾りやガラス  
 小玉といったアクセサ  
 リー、石室内の儀礼で  
 お酒などの液体を注い  
 だ容器(須恵器)など  
 が見つかっています。  
 なかでも、奥壁隅の  
 大刀は、壁に立てかけ  
 られた状態で発見され  
 ました。同様の大刀の  
 出土は全国的にも珍し  
 く、古代人が悪霊等か  
 ら墓室内を守るために  
 立てかけたとする説も  
 あり、この時代の儀礼  
 を考える上で非常に重  
 要な成果です。



石室内に残された須恵器…お酒などの液体を注いだ容器が目立つ



大刀の発掘風景…いいいな手作業が、とても大事



石室入口の段構造と閉塞石…儀礼が終わると、石室は石で閉ざされた



奥壁隅の大刀(上から)…鐙が付いたまま、さび付いたようだ



奥壁隅の大刀と床面に落ちた刀装具



石切平第2号墳の上から富士山を望む



石室の入口近くで見つかった儀礼の痕跡

**墓前儀礼**  
さらに石室の入口付近では、須恵器や馬具を用いた儀礼の痕跡も見つかりました。須恵器には甕や瓶、坏の破片が多いことから、亡き先祖を偲び、古墳の前で大勢の人が飲食を伴う儀礼を行っていた可能性が考えられます。

**古墳の主は？**  
石切平第2号墳が属する比奈1古墳群は、6世紀末から7世紀にかけて築かれた30基前後の古墳で構成されています。古墳群内や近隣で最上位クラスと考えられるのが、かつて吉原工業高校運動場に位置していた大坂上古墳や、東名高速道路沿いに存在した赫夜姫1号墳であり、ともに石室規模は全長9m以上を測ります。両古墳を築いた人物を比奈の集団の指導者層とみれば、石切平第2号墳の主は、彼らを軍事面でサポートした地域の有力者であったと考えられることができます。



赫夜姫遺跡出土 注口土器（縄文時代後期）



宇東川遺跡A地区 中央に炉のある竪穴住居（縄文時代中期）

**縄文時代の一大集落**  
原田公園周辺の高台を中心に広がるのが、宇東川遺跡です。原田公園造成に先立つ発掘調査（A地区）によって、縄文時代中期から平安時代にかけての幅広い時期にわたって、集落が営まれていたことがわかりました。特に縄文時代の集落の広がりには目覚ましく、縄文時代後期には、南に位置する沖田遺跡や、松原川の北岸に位置する中島遺跡、吉原第三中学校周辺の赫夜姫遺跡までの広い範囲に展開したようです。富士山の溶岩流の末端に位置する原田・吉永地区周辺は、湧水池が多いことも有名であり、縄文時代の人たちが貴重な水源を求めて、一帯に集落を形成したと考えられます。



宇東川遺跡F地区出土遺物（古墳～平安時代）



中島遺跡出土遺物（縄文時代）

**他地域との交流の姿**  
宇東川遺跡A地区では縄文時代に使われた黒曜石の鏝や原石が出土しており、これらの黒曜石の原産地は、蛍光X線分析装置を用いた調査により、長野県の霧ヶ峰地区、伊豆の天城地区、伊豆諸島の神津島地区などであると推定されています。また、同じくA地区からは、古墳時代前期の北陸地方南部と関わりの深い甕の破片も出土しています。



宇東川遺跡F地区の古墳～平安時代の集落跡と原田公園

# 豊かな水と大地に恵まれた集落

## 縄文時代から平安時代まで



原田地区の周辺にある主な遺跡・古墳群

発掘調査や市内遺跡についてのお問い合わせは…  
富士市教育委員会 文化財課 TEL: 0545-22-2095 FAX: 0545-22-2096  
富士市埋蔵文化財調査室 E-mail: ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp



奈良・平安時代の役人の帯飾り（中央）と筆記具など